

北陸電設ニュース

No.55

車購入

山本 昌克



妻がメインで使用しているので知らない人もいますが、僕達家族で出かける時は妻の父から譲り受けたVOXYを使用していた。車の年式はH10年代で、いたるところが故障していた。スライドドアが片方しか開かず、足元の収納ポケットは走行中にカタカタと音が鳴り、燃費も凄まじく悪く、挙げ句の果てにカーナビも壊れ、テレビも無ェ！ラジオも無ェ！オラこんな車いやだぁ〜…状態で、とにかく不便だった。そんなVOXYも車検満了が迫り、とうとう買い替える事を決意した。「安い中古車で良いんじゃない？」と言う妻を何とか説得し、新車購入にこぎ着けた。選んだ車はハイブリッドミニバンのエスクァイアだ。そして、ついに、この作文を書いている前日、昨日が納車日だった。

以前のVOXYとは比べものにならないくらい乗り心地は最高だ。10インチのカーナビに12.1インチの後部座席モニター等々、そして何より両側パワースライドドアだ。片側しか空かない状態に慣れていた僕達には感動ものだった。新車にテンションが上がり、天気も良かったので五箇山までドライブに出掛けた。新しい車でのドライブは快適でとても気持ちが良かった。子ども達もDVD等を見ながら飽きずに乗っていてくれて、家族みんな大満足だった。今度は娘が大好きなアンパンマンミュージアムに連れて行ってあげたいし、北設ファミリー交流会のゲームで貰ったUSJのチケットもある。新しい車で出掛けたい所がいっぱいだ。

家族の笑顔を見るために仕事を今まで以上に頑張ろうと思う。まずは6月の一級電気工事施工管理の学科試験合格を目指します！！

興味と疑問

高濱 祐樹



最近、ふと思ったことで、興味を持つということはなかなか難しいものだと思います。どうしてかということ興味とは自分の趣味だとか好きなことには持てるのですが、それ以外のことに関してはあまり関心を持ってないからだと思います。例えば目に映るものでも、それが一般的、常識というのが当たり前と認識してしまうからではないかとも思います。なので一つの案として「疑問を持つ」ことを心がけてみたらどうかと思いました。

日常として例えば信号機の青はなぜ「青」というのか？青と言われる色は緑に近いと思います。日本語では緑色の野菜を「青野菜」と言ったり新緑を指して「青々とした緑」と呼ぶ習慣があったため、緑色の信号灯を青と呼ぶ表現が定着したのではとのことです。言葉として例えば「クレイジー」というと日本ではどうしても「狂っている」という意味に思われがちだけど英語としては「すごい」とか「素晴らしい」という意味としても使われるそうです。

いまではケータイ電話でもインターネットが利用できるのも便利な世の中になっています。自分は最近、くだらないことでも事でも「なぜ」と思った時には調べるようにしています。知識を得るといって興味と疑問は似ているところがあると思います。その点で考えると興味を持つよりも疑問に思う方が簡単なのではないかと思います。また、一般的、常識の中にも疑問から新しい発見や面白い事が見つければそれが興味につながるかもしれないと思います。



当社の庭に日本タンポポが咲いていました (左写真)

…といってもピンと来ないと思います。絵の左が日本タンポポで右が西洋タンポポです。茎と花の接続部分の総苞と呼ばれる所に注目すると西洋タンポポは反り返って、下を向いている。反対にガク片がピタッとくっついていて、上を向いているのは日本タンポポです。また、西洋タンポポは花の数が多くてひとつの花びらが小さくて、花の全体の大きさが大きいのが特徴ですが、日本タンポポは花の数が少なく、ひとつひとつの花びらは大きくて、全体の花の大きさが小さい特徴があります。

よく見るタンポポは西洋タンポポです。環境省指定要注意外来生物で、日本の侵略的外来種ワースト100に選定されています。絶滅危惧種の日本タンポポが当社を選んで咲いてくれています。大切にしましょう。(北設花子)

先日、ある旅行会にて初めて富岡製糸場を訪ねてきました。平成26年に世界遺産（文化遺産）に登録され、同年に建物の一部が国宝にも指定されました。富岡製糸場は、明治5年(1872年)に明治政府が日本の近代化のために設立し、生糸の品質改善・生産向上と、技術指導者を育成するため、洋式の繰糸器械を備えた官営の模範工場でした。それが現在までほぼ変わらぬ姿で残されています。教科書等でなんとなく名前だけ知っていた程度だったので、実際ガイドの説明聞きながら見学すると、当時のすさまじい産業発展へのエネルギーを感じ、「百聞は一見にしかず」をまじまじと実感しました。

明治5年の建築物がほぼそのまま現存している事に驚くと同時に、電気も建設機器も無い当時の施工におけるマンパワーに思いを致しました。私達の電気工事は現在でもマンパワーが必須です。社員一人一人が電気のエキスパートとして誇りを持って取り組みましょう。エキスパートである事が私自身のプライドです。 代表取締役社長 藤岡健一

今月のトピックス



4/28若手社員に運転講習を行いました(上写真3枚)作業車をバックさせる誘導実習です。運転手に見える位置で声を出す指導をしています。先輩の誘導方法を真似ながら頑張っていました。

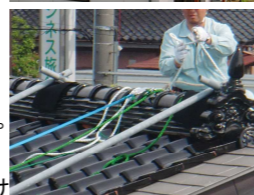
業務(着工・竣工等)

- 某介護福祉施設のユニット化増設改修の電気工事を受注
- 某会社の社屋移転工事電気設備工事を受注
- 井田川水系ほか配電線及び光ケーブル等保守点検業務委託を受注



その他

- ・4/9健康診断を当社屋にて行いました。
- ・5/31命綱(胴綱)の実技練習を行いました。(右写真2枚)
- ・交通事故防止のために、KTM時に声掛けの指導をしました。



北陸電設「あいの家110番」

吉田 広美



北陸電設は正面玄関に「あいの家110番」の看板を掲示しています。「あいの家」とは広田地区からの委託を受け、登下校時の子ども達の安全を目的に登録された場所です。時々走る広報車は「不審者がいたら、あいの家へかけこみましょう」と子ども達に注意を促しており、「あいの家」は子ども達を災難から保護する役割があるようです。

子ども達は「あいの家」のことをよく知っていて、北陸電設にも午後になると帰宅途中の子ども達が時々訪ねてきます。今までに、不審者に追いかけて…という事例はありませんが、ほとんどがトイレを借りに来ることが多く、ケガをして来たり、道路で拾ったお金を届けてくれたりと用件は様々です。当社では子ども用に、タオルや簡単な着替えを用意しています。タオルは雨の日用に、着替えは以前、会社の側の用水に子どもが落ちたことがあり、その時から準備しています。

訪ねてくる子ども達は顔なじみになると、学校の話をしてくれたり、北陸電設や電気工事の仕事に興味を持ってくれることもあります。数人集まると会社の敷地で遊びはじめ、社員の人から注意を受けることもあるので、長居をしないよう、早々に帰るよう促しますが、必ず「車に気をつけて帰りなさい」「暗くなる前に帰りなさい」と声をかけるようにしています。子ども達が悲しい事件や事故にまきこまれないように願い、そして、いつか大人になって、電気工事の仕事を希望して訪ねて来てくれたら嬉しいだろうな、なんて考えながら、見送っています。